

「いろいろきのこたち」

平松 莉来（ひらまつ りこ）4歳

明教保育園（長崎教区）

画面には、大小さまざまな形や色のきのこが描かれています。どのきのこも微笑んでおり、ひとつひとつ、いや、一人一人と言いたくなるほど個性豊かな表情をしています。中央の大きなきのこは「お母さん」、その右隣の水色のきのこは「お父さん」だと教えてくれました。お母さんには、まつげも描かれています。上に三人並んでいるきのこのうち、真ん中は自分、両端は二人の妹だそうです。右下の白いきのこたちは、クラスのお友だちとのことでした。

きのこを描いているはずなのに、そこに自分の家族や友だちの姿を重ね合わせています。りこさんの、身近な人への愛情があふれる表現です。幼児期特有の、あらゆる存在に命のつながりを感じ取る感性により、ファンタジックに描かれています。導入の言葉かけでは、先生が「お帽子」「お顔」「手をつないでいる」など擬人化した言葉を用いて、こどもの想像世界を守り、引き出しました。その結果、愛他の心を源泉とする豊かな表現が画面全体に広がっています。

●表紙のことば●



おお はし いさお
大橋 功

和歌山信愛大学